



プラド美術館所蔵

# ゴッヤ

Obras Maestras del Museo del Prado Goya: Luces y Sombras 光と影

2011年10月22日(土) — 2012年1月29日(日)

開館時間 9:30—17:30 (毎週金曜日は20:00まで) \*入館は閉館の30分前まで 休館日=月曜(1月2日と9日は開館)、12月28日—1月1日、1月10日

 国立西洋美術館  
The National Museum of Western Art [東京・上野公園]

読売新聞社 MUSEO NACIONAL DEL PRADO



# 《着衣のマハ》、40年ぶり来日。 プラドの誇るゴヤの真髓を一堂に。



《スペイン王子フランシスコ・デ・パウラの肖像》  
1800年 油彩/カンヴァス 72 X 59 cm



《日傘》  
1777年 油彩/カンヴァス 104 X 152 cm



《洗濯女たち》  
1779-80年 油彩/カンヴァス 218 X 166 cm



《ホベリャーノスの肖像》  
1798年 油彩/カンヴァス 205 X 133 cm



《夢》1番 作者は夢みている [(ロス・カブリェーヨス) 43番のための準備素描]  
1797年 鉛筆、ペン・セピア/紙  
24.7 X 17.2 cm



《蝶の牡牛 (素描帖 G) 53番》  
1824-28年 コンテ、鉛筆/灰色の糞目紙  
19.4 X 15.0 cm



《自画像》  
1815年 油彩/カンヴァス  
45.8 X 35.6 cm

## 雅宴から動乱へ——

### 画家ゴヤが見つめた、人間の光と影。

スペイン美術の巨匠フランシスコ・デ・ゴヤ (1746-1828) の作品は、西欧社会の一大変革期の証言であるとともに、時代を超えて私たちの心に響く今日性を備えています。彼は成功への野心に駆られて国王カルロス4世の首席宮廷画家に上りつめ、王侯貴族や廷臣たちの優雅な肖像画によって名声を得ました。しかし、ナポレオンの侵略により戦争と混乱に見舞われたスペイン社会の悲惨な現実や、心の奥にひそむ不条理な幻想世界への関心は、彼の後半生の芸術に大きな展開をもたらします。社会と人間の諸相を光と影の交錯のもとに捉えるゴヤの創造力は、82年の生涯の最後まで衰えることを知りませんでした。この展覧会は、ヨーロッパ絵画の宝庫として名高いプラド美術館のコレクションから選ばれた油彩画、素描など72点を中心に、国立西洋美術館などが所蔵する版画約50点を加え、ゴヤ芸術のさまざまな側面を紹介します。

観覧料 (税込)	当日	前売
一般	1,500円	1,300円
大学生	1,200円	1,000円
高校生	800円	650円

- \*団体は20名以上 (前売と同料金、20名につき1名無料)。
- \*中学生以下無料。
- \*心身に障害のある方および付添者1名は無料 (入館の際、障害者手帳をご提示ください)。
- \*本展の観覧券で常設展示もあわせてご覧いただけます。

## 交通案内

- JR上野駅下車 (公園口) 徒歩1分
- 京成電鉄京成上野駅下車徒歩7分
- 東京メトロ銀座線・日比谷線 上野駅下車徒歩8分
- \*駐車場はございませんので、お車でのご来館はご遠慮ください。



国立西洋美術館  
The National Museum of Western Art  
〒110-0007 東京都台東区上野公園 7-7

Archivo Fotográfico, Museo Nacional del Prado, Madrid.